

理事退任にあたって

理事 西村 恭昌



日本がん治療認定医機構は、がんについて適切な情報提供が可能な幅広い知識を有する医師を増やし、全国どこでも一定レベル以上の治療が受けられるがん診療体制を確保するため、2006年12月に日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の3学会と、全国がん(成人病)センター協議会の計4団体の連携により発足しました。2018年に発行された「日本がん治療認定医機構10年史」を読み返しますと、発足にあたっては、特に日本癌治療学会と日本臨床腫瘍学会の認定医・専門医に対する考え方の違いもあって、紆余曲折があったようです。私は2016年から日本癌治療学会からの推薦理事として教育委員会副委員長などを務めてきました。私の在任中は教育認定事業も軌道に乗っており、一定の役割を果たせたものと存じます。今回理事退任にあたり一言ご挨拶させていただきます。

2021年のがん罹患数予測では年間約100万人が新たにがん罹患し、がん死亡数2020年推計値は約38万人です。15歳から64歳までの現役世代人口は25年以上前から減少しており、今後さらに急速に減少します。一方、65歳以上の高齢者人口は年々増加し、がん罹患数が高齢者人口と密接な関係があるとすれば、今後40年間は現在と同数程度のがん患者数が続くものと予想されます。初代理事長の今井浩三先生のお言葉では、がん治療総合医であるがん治療認定医は、少なくとも2万人は必要とのことでした。2021年現在がん治療認定医およびがん治療認定医(歯科口腔外科)合わせて約18,000人が認定され、本機構設立15年でその当初目標の約2万人が達成できました。がん医療の均てん化には幅広い能力を持ったがん治療認定医が全国各地にいて、必要に応じて手術、放射線治療、薬物療法などにつなぐことが重要であり、ようやくその体制が整ったといえます。在籍施設では、自分の専門領域以外のがん診療にも精通しているがん治療認定医は、カンサーボードなどでリーダーシップを発揮しているものと思います。

個人的には教育委員会副委員長として、がん治療認定医教育セミナーおよび認定医試験に参画しました。教育委員会は、滝口裕一委員長以下36名の委員を擁する大きな委員会で、テキスト・試験問題専門部会、Web試験問題専門部会の2つの部会があります。セミナー講師の先生はテキスト執筆や試験問題の作成、教育委員は講義やテキストの評価、試験問題の校正、合格ラインの判定などを担当し、委員会は年数回日曜日をつぶして行われます。多くの方々のボランティア精神とがん診療に対する熱意があってこの認定医制度が成立していることを実感しています。テキストや講義の内容も年々進歩するがん治療に対応するup to dateなものになっており、私自身の知識向上にも役立っています。2020年からは新型コロナ禍の影響が大きく、教育セミナーはWeb開催で、試験は全国主要都市での分散会場で受けるスタイルになりました。さらに2022年からはコンピュータ試験(CBT; computer based testing)となる予定です。がん治療認定医制度も時代の変化に対応しています。

退任にあたって、一つ気がかりなことは、日本専門医機構が束ねる専門医制度とがん治療認定医の関係です。サブスペ領域の専門医制度も右往左往しているなか、西山正彦理事長が尽力されている「がん治療認定医は各種がん専門医の共通基盤として横串となる」ことが専門医制度のなかで明文化されることを期待します。がん治療認定医制度の発展とわが国のがん診療のさらなる向上を祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。

がん治療認定医総数

18,089名

がん治療認定医(歯科口腔外科)総数

608名

2022年4月1日現在

▼ 目次

理事退任にあたって	1
2021年度認定医試験報告	2
2021年度認定医および認定研修施設審査結果報告	2
役員一覧	2
重要 2022年度より がん治療認定医試験がCBT (computer based testing)に変わります	3

重要 2022年度より

がん治療認定医更新手続きがWeb申請になります	3
2022年度 教育セミナー・認定医試験開催概要	4
2022年度 認定研修施設更新手続き・在籍報告について	4
編集後記	4

2021 年度認定医試験報告

教育委員会

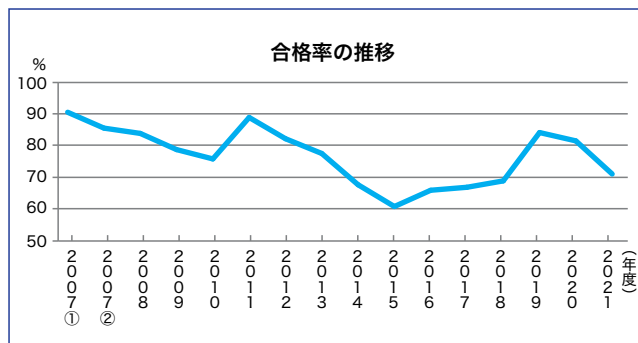
委員長 滝口 裕一



2021 年 10 月 31 日に第 16 回がん治療認定医試験が実施され、1,245 名が受験しました。新型コロナウイルス感染に対応した方法になって 2 年目となり安心して受験していただけたものと思います。例年通りテキストの第 I 部（がん治療に求められる基盤的知識）と第 II 部（各種悪性疾患の診断と治療の基本原則）から 1：1 の問題数、配点でした。合格者は 886 名（医師 849 名、歯科医師 37 名）、合格率 71.16% でした（右図参照）。日常の診療でご多忙の上に Covid への対応が求められる中、このような好成績を達成された先生方の日頃の研鑽に深く敬意を表したいと思います。2022 年は computer based testing (CBT) の実施となります。運営でご迷惑をかけないよう最善を尽くしたいと存じます。

本機構では試験問題の質の向上を図るため専門家も交

えて多面的な検証を行い品質管理の向上に努めています。受験者の皆様におかれましては、本認定医試験を今一度ご自身のがん治療に関する基盤的知識の点検の機会ととらえていただき奮ってのご参加を期待いたします。



2021 年度認定医および認定研修施設審査結果報告

資格審査委員会

委員長 檜山 英三



2021 年度のがん治療認定医認定は 829 名の新規認定と、猶予を含めて 2,261 名の更新認定（1 回目：848 名、2 回目：1,413 名）を行いました。コロナ禍の中で昨年同様に e-learning による教育セミナーと、全国 7 か所の認定医試験を踏まえての新規認定となりました。今後は CBT 試験の導入を含め受験しやすい環境整備を進めたいと考えます。一方、更新合格者数は、ほぼ連年通りでした。現時点で、がん治療認定医がほぼ 18,000 名を超えるとともに、更新手続きを終えて指導責任者の資格を得た医師が 10,000 名をゆうに超え、来年は初年度の認定医は 3 度目の更新年となります。

また、一昨年改訂した認定研修施設審査基準のもとで。

新規申請 10 件すべてを合格とし、一方、更新は 30 件全施設で更新可となり、改訂基準も滞りなく運用されています。本機構の研修施設が患者相談、病理診断や緩和医療体制を含めたがん診療を提供できる施設としてより充実する方向に進み、本機構の活動が認定医の養成のみならず、認定施設の日常のがん治療水準向上にも寄与し、本機構の目指す方向に着実に進んでいるといえます。

2021 年度がん治療認定医審査結果

新規合格者数 **829** 名
更新合格者数 **2,261** 名

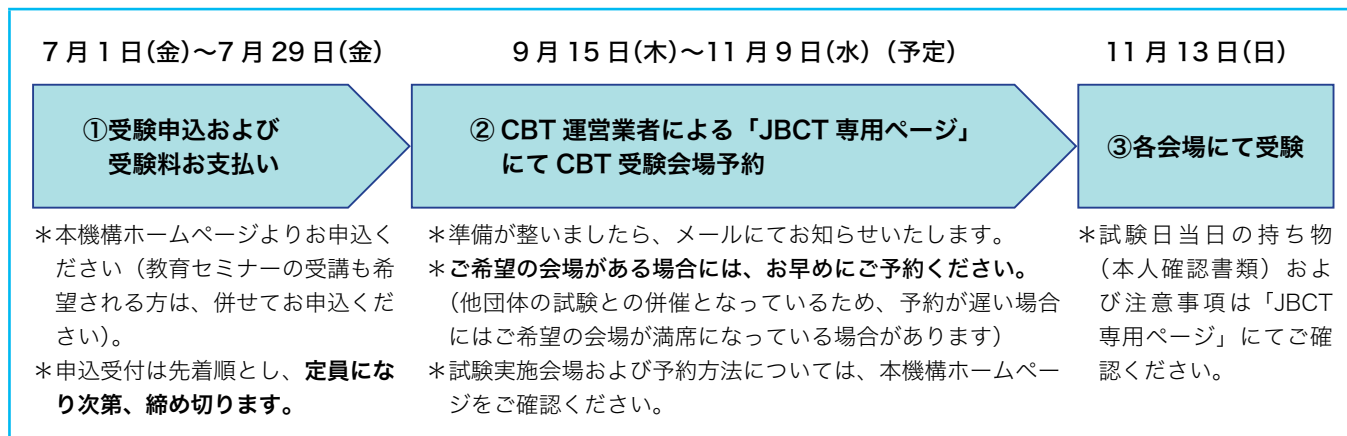
役員一覧

- 理事長 西山 正彦（東札幌病院）
- 副理事長 中釜 斉（国立がん研究センター）、大江 裕一郎（国立がん研究センター中央病院）
- 理事 青木 大輔（慶應義塾大学）、井本 滋（杏林大学）、佐谷 秀行（藤田医科大学）、滝口 裕一（千葉大学）、藤 也寸志（九州がんセンター）、中山 治彦（神奈川県立がんセンター）、西村 恭昌（近畿大学）、野々村 祝夫（大阪大学）、馬場 秀夫（熊本大学）、張替 秀郎（東北大学）、檜山 英三（広島大学）、藤原 俊義（岡山大学）、南 博信（神戸大学）、森 正樹（九州大学）
- 監事 清水 研（がん研有明病院）、西田 俊朗（大阪病院）

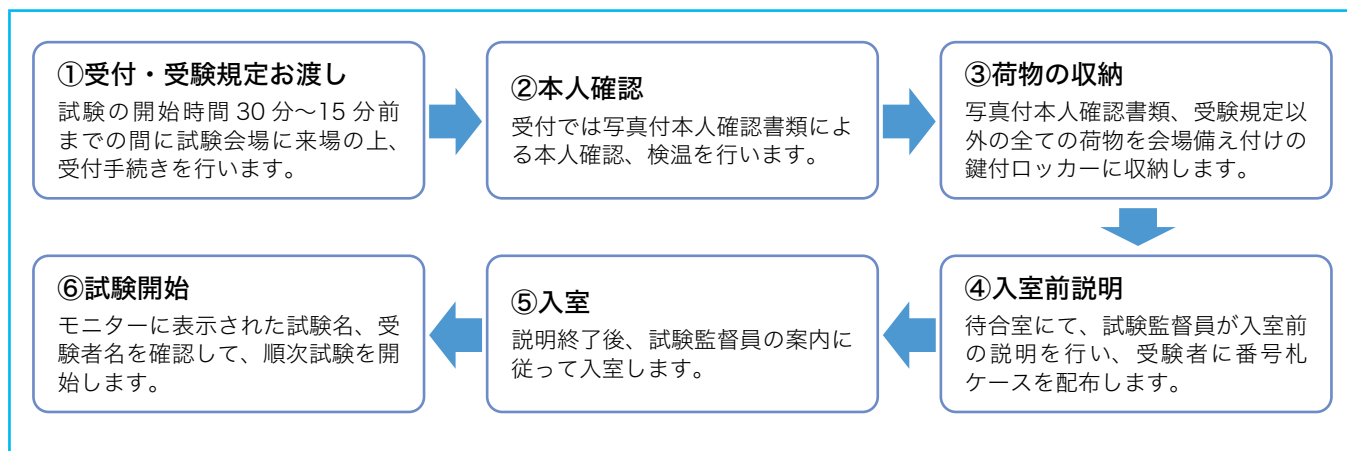
重要 2022 年度より がん治療認定医試験が CBT (computer based testing) に変わります

昨年度まで、各試験会場にてマークシート方式での試験を実施しておりましたが、今年度より CBT (computer based testing) による試験を全国 47 都道府県で実施いたします。詳細は本機構ホームページをご確認ください。

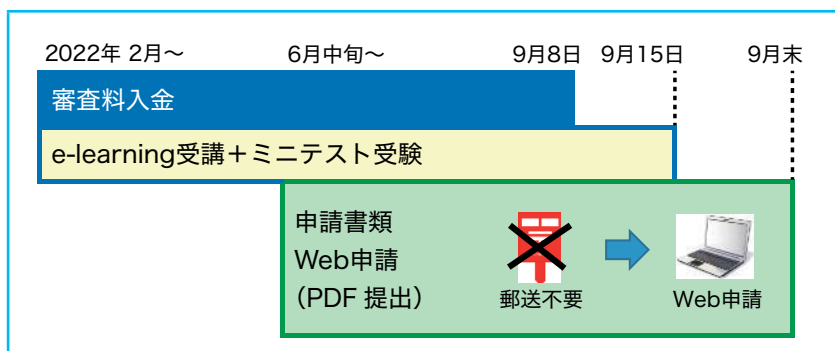
1. お申し込みから受験までのながれ (定員 1,400 名)



2. CBT の当日のながれ



重要 2022 年度より がん治療認定医更新手続きが Web 申請になります



昨年度まで、システムにて申請書類を作成後、必要書類と併せて郵送にて申請いただいていたおりましたが、今年度より Web 申請 (PDF をシステムにアップロード) いたします。

郵送の手間がなくなり、申請期間中は 24 時間いつでも申請が可能となります。Web 申請の詳細については、6 月上旬に本機構ホームページに掲載いたします。

2022年度 教育セミナー開催概要

開催に関する詳細につきましては、HPをご確認ください。

開催日程 2022年11月4日(金)
～11月12日(土)24時

開催方法 Webによる開催

申込期間 7月1日(金)～7月29日(金)
本機構HPよりお申込のうえ、所定の金額をご入金ください。

定員 1,400名

費用 教育セミナーのみ 14,410円
認定医試験のみ 14,410円
セミナー・試験両方 25,410円
※いずれもテキスト代・事務手数料・消費税込

! テキストは、9月上旬に送付いたします。
必ず事前に予習をしたうえで、受講・受験に臨んでください。

●教育セミナー 講義内容一覧

I：がん治療に求められる基盤的知識

1. がんの生物学・分子生物学 (土原 一哉・国立がん研究センター)
2. 遺伝性腫瘍 (横井 左奈・千葉県がんセンター)
3. 腫瘍免疫学 (北野 滋久・がん研究会有明病院)
4. がんの疫学・がん検診 (井上 真奈美・国立がん研究センター)
5. 臨床研究と統計学 (水澤 純基・国立がん研究センター)
6. 病理学 (分子病理学を含む) (牛久 綾・東京大学)
7. 画像診断学 (遠藤 正浩・千葉大学)
8. 外科治療学概論 (調 憲・群馬大学)
9. 化学療法概論 (小野 麻紀子・がん研究会有明病院)
10. 分子標的薬概論 (林 秀敏・近畿大学)
11. 免疫療法概論 (各務 博・埼玉医科大学国際医療センター)
12. 放射線療法概論 (生島 仁史・徳島大学)
13. 緩和医療特論 (松本 禎久・国立がん研究センター東病院)
14. 精神腫瘍学 (サイコオンコロジー)
(和田 信・大阪国際がんセンター)
15. がん救急 (岡本 渉・広島大学)
16. がんの診療と倫理 (野口 瑛美・医薬品医療機器総合機構)

II：各種悪性疾患の診断と治療の基本原則

1. 脳腫瘍 (杉山 一彦・広島大学)
2. 頭頸部がん (清田 尚臣・神戸大学)
3. 食道がん (竹内 裕也・浜松医科大学)
4. 胃がん (坂東 英明・国立がん研究センター東病院)
5. 大腸がん (佐竹 悠良・関西医科大学)
6. 肝がん (森口 理久・京都府立医科大学)
7. 胆道がん・膵がん (上野 誠・神奈川県がんセンター)
8. 肺がん (津端 由佳里・鳥根大学)
9. 乳がん (高野 利実・がん研究会有明病院)
10. 婦人科がん (川名 敬・日本大学)
11. 骨・軟部腫瘍 (米本 司・千葉県がんセンター)
12. 泌尿器科腫瘍 (杉元 幹史・香川大学)
13. 皮膚がん (藤澤 康弘・筑波大学)
14. 白血病 (堺田 恵美子・千葉大学)
15. 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫 (池添 隆之・福島県立医科大学)
16. 小児がん (加藤 元博・東京大学)

2022年度 認定医試験開催概要

開催に関する詳細につきましては、HPをご確認ください。

開催日程 2022年11月13日(日)
受付時間 12時30分～12時45分
試験時間 13時00分～14時25分(85分)

開催方法 CBT(computer based testing)

開催会場 各CBT会場(全国47都道府県)

申込期間 7月1日(金)～7月29日(金)

**受験会場
予約期間** 9月15日(木)～11月9日(水)
本機構HPよりお申込みのうえ、左記教育セミナー開催概要に記載の所定の金額をご入金ください。その後、受験会場予約期間に会場予約を行ってください。

定員 1,400名 (※ただし会場毎に定員あり)

認定研修施設

2022年度 更新手続・在籍報告について

更新手続

対象施設 2017年11月1日付で認定または更新認定された施設で、更新を希望される施設

更新手続 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設更新通知書」をお送りいたします。(詳細は、HP「認定研修施設更新申請」をご確認ください)

在籍報告

対象施設 更新手続対象(上記)以外の施設

提出方法 対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設在籍報告のお願い」をお送りいたします。(詳細は、HP「認定研修施設在籍報告書」をご確認ください)

! 認定研修施設の審査基準が2020年4月1日に制定されました。HPをご確認のうえ、更新手続または在籍報告を行ってください。
<https://www.jbct.jp/facilities/qualification.html>



編集後記

このたび、JBCT ニュース第9号を発刊いたしました。当機構の事業も新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受け、2020年度に引き続き2021年度も認定医試験は分散開催となりました。これを契機に今後認定医試験はCBTの形式をとる予定です。セミナーもWeb開催となり、受験者の皆様にとって利便性が向上したことは、ある意味コロナウイルスのプラスの効果なのかもしれません。一方で、これまで現地で行っていたセミナー・試験見学会は今後開催することが難しくなるものと思います。この会は関連学会の先生方から直接ご助言を頂戴する貴重な機会であっただけに非常に残念です。本誌がこのような生の企画を補完することは難しいと思いますが、本誌を通じてできるだけ多くの方に当機構の事業をお伝えしていきたいと思っております。引き続きよろしくご支援の程、お願い申し上げます。

(広報・渉外委員会委員長 張替秀郎)